

平成22年度自己評価結果

1、本園の教育目標

『自然に生き生きと』を教育目標に掲げ、「どの子どもも育つ、育て方ひとつ」を合言葉に、様々な事柄を体験・経験させることで子ども達の持つ能力を最大限引き出してやりたいと願い、日々の教育に取り組んでいる。

目指す幼児像としては次の6項目を挙げる

- 1、心身ともに健康で明るい子ども
- 2、豊かな能力の芽生えを喜び、自信を持てる子ども
- 3、集中してよく見、よく聞く、考え深い子ども
- 4、最後までやり遂げる子ども
- 5、思いやりと感謝に満ちた子ども
- 6、基本的な生活習慣を身に付けた子ども

さらに、教育を行なう上で本園が柱としている『三つのしつけ』がある

- 1、しっかり挨拶、「はい」と返事をしましょう
- 2、履物をきちんと揃えましょう
- 3、姿勢を正しましょう

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

幼稚園教育要領の改訂及び幼児を取り囲む社会的環境の変化、保護者の要望などを踏まえ、教育環境や教育課程の内容を確認し、教職員の意識の統一を見直し、教育の質を高めるとともに、本園が今後取り組んでいかなければならない課題を明確にし、園児の教育環境、内容のさらなる充実を計る

3、評価項目の達成及び取り組み状況

| 評価項目 | 取り組み状況 | 評価 |
|---|--|----|
| 幼稚園教育要領の内容を踏まえ、園の教育理念・教育方針に従い、教育内容を編成している | 教育内容の見直しや新しい取り組みについて園長以下、主管者で企画・検討し、教育内容の充実を計っている | A |
| 教育要領・教育課程、子どもの実態などをもとに指導計画を作成している | 毎年指導計画に加筆・訂正を行ない、子どもの実態に即した内容にするよう努めている | A |
| 月毎に各学年の指導の成果と課題を報告している | 各学年で月や週の指導目標を定め、毎月ごとに達成状況を報告し合っている | A |
| 子ども一人ひとりの良いところを見つけ、評価している | 一人ひとりの子どもの良いところ・成長したところ・出来るようになったことを見つけ、褒め、朝礼などの機会に表彰をしている | A |
| 規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行なう | 登園から降園までの一日の流れの中で、身に付けてほしい生活習慣の獲得を促している（「三つのしつけ」を基盤に） | A |
| 研修会や研究会に積極的に参加して職員間で学んだことの報告会を行なっている | 各種研修会や研究会に参加し、学んだことを資料にまとめ職員間で共有したり、研修内容の発表会を行なっている | A |
| 園だよりや「あすなる通信」、ホームページなどで幼稚園の情報を発信していく | 園の教育方針や取り組みの状況を、逐一園だよりや隔月間の「あすなる通信」やホームページに記載し、積極的に情報発信に取り組んで行く | B |
| 幼稚園の状況を踏まえて中・長期的な指導ビジョンと計画を策定する | 社会的環境の変化や、保護者の要望にどのようにして応えていくべきか検討をしている（園庭解放の実施や近隣小学校との交流会） | A |
| 保護者の要望の把握に努め、適切な対応を計る | 保護者が先生として授業に参加する『一日先生』システムの導入により、園での活動の実際を知ってもらい、参加後の感想文により改善点があれば改善するように努めている | A |
| 教育の質の向上のために園内研修を充実させる | よりよい教育を実践できるよう常に研究を怠らぬように務めている。本年度は年初に堺市私立幼稚園連合会の幼児教育研究園の指定を受け、「言葉の教育」を年間の研究目標として、特に「漢字かな交じり絵本」の音読に取り組み、12月の音楽会で年長児の「音楽劇」発表につなげて、その成果を堺私立連合会の研究発表会で発表することができた。 | A |

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、各自適切に取り組んでいる様子を見ることができた。今後も自らの教育を見直し、充実した実践ができるように精進していきたい。
情報公開や近隣地域との交流、安全危機管理について、今後の達成課題とし、改善していかなければならない

5、今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|----------|--|
| 情報公開の方法 | ホームページをより見やすく、内容の充実したものにし、園での活動の様子やお知らせをたくさん発信していく |
| 安全危機管理 | 不審者侵入に備えた防犯訓練の徹底やマニュアルの作成、危機管理に対する職員の意識の向上に努める |
| 近隣地域との交流 | 園庭解放を実施し、就学前の幼児とその保護者に来園してもらって子育て支援の一環とする |

学校関係者評価

東百舌鳥幼稚園の学校運営については、その自己評価結果表にある通り、適切に運用されていると評価します。

近隣地域との交流についても、地域の子育て支援の活動に積極的に関わっていることを評価します。